



平成25年2月7日

各位

上場会社名 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス  
 代表者 代表取締役社長 長瀬 朋彦  
 (コード番号 6879)  
 問合せ先責任者 取締役 常務執行役員 経営管理管掌 角田 光敏  
 (TEL 03-6741-5742)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成25年2月7日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成24年8月9日に公表した平成25年3月期(平成24年4月1日～平成25年3月31日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	52,800	2,800	2,800	1,400	32.96
今回修正予想(B)	50,000	1,500	1,600	320	7.53
増減額(B-A)	△2,800	△1,300	△1,200	△1,080	
増減率(%)	△5.3	△46.4	△42.9	△77.1	
(ご参考)前期実績 (平成24年3月期)	50,865	2,935	2,980	2,222	56.43

#### 修正の理由

当社グループの映像技術サービス事業セグメントの映画分野におきましては、フィルムプリントからデジタルシネマへの移行が継続的に進んでいることに伴い、フィルム関連サービス市場は引き続き縮小しております。フィルム関連需要の低下を見越して収益構造の改革に努めて参りましたが、フィルム・ビデオ変換サービス等、フィルムに隣接するサービスにおいても今期に入り受注の低下が顕著になっております。

当社グループでは、この動向を踏まえ、平成24年8月9日に業績予想を下方修正いたしました。その傾向は当社グループの想定を超えて進展しており、当期業績に影響を及ぼしています。一方、デジタルシネマ関連作業においても、洋画興行の不振による公開規模の縮小や、邦画ヒット作品のロングラン上映により、DCP(デジタルシネマパッケージ)コピーの受注量が予定を下回る見通しであり、フィルム関連サービスの減少をカバーするには至っておりません。

このような状況の下、平成25年3月期通期連結売上高につきましては、上記フィルム関連事業の縮小により減少する見込みであり、営業利益及び経常利益につきましては、フィルム関連事業に加えて、デジタルシネマ関連事業の売上高の減少に伴う利益の低下により、前回発表の予想数値を下回る見込みであります。

なお、当社グループの映像技術サービス事業セグメントの事業モデルは、費用に占める固定費の割合が高いことから、売上高の減少が営業利益及び経常利益の減少に大きく影響しております。

また、通期連結当期純利益につきましては、さらにフィルム関連設備の減損損失を第3四半期に特別損失として計上することに加え、第4四半期に追加の構造改革に伴う費用等を特別損失として計上する見込みであるため、前回発表の予想数値を大幅に修正いたします。

フィルムからデジタルへの移行に伴うフィルム関連事業の収益改善・構造改革は、今期中に目処をつけ、来期以降の業績の回復を期しております。

なお、当期の配当予想につきましては、前回発表予想(期末:1株当たり15円)から変更はございません。

(注)上記の業績予想は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上